

タイトル:製材機を活用した林業・木材関連産業教育

テーマ1:教育環境の特徴(森林文化アカデミー)

- ・演習林から製材工場、乾燥機、建築まで一貫した実習環境。
- ・現地現物主義を重視した実体験型教育。
- ・カリキュラム体系の中に「製材」がある。
 - ・木材加工のみならず、林業の教育の手段としても活用している。
 - ・全国の林業系専門学校の中で、
唯一、「製材」施設と、関連の授業と専属教員を有している。

テーマ2:森林資源と木材利用の現状

- ・高樹齢化 → 大径化が進行中。
- ・大径材は製材工場で嫌われがち：
 - ・自動化・量産化の流れに合わない。
 - ・元玉部分は、挽曲がりが大きい。
- 対策→すぐに蒸気式人工乾燥(熱圧をかける)。

テーマ3:林業側の課題

- ・丸太の内部品質は製材して初めて分かる。
- ・林業側は川下(製材・建築)からの評価を知る機会が少ない。
- ・C 材以下の材は製材されないため、実態が不明。
- ・利用方法の検討が進んでいない。
 - ・実は・・・

テーマ4:製材・木材利用側の課題

- ・規格外寸法の材が入手困難。
- ・JAS 材(強度・水分保証付き)の流通が少ない。
- ・適切な人工乾燥材が求められている。
- ・生材や過乾燥材は不適。